

「馬場小室山遺跡フォーラム」第62回ワークショップ

【実践！パブリック・アーケオロジ-2014】

馬場小室山遺跡を形成した「見沼文化」(人類活動と環境変遷)の追及、そして未来への展望

1. 【2014 年度活動方針】: 「馬場小室山遺跡研究会」10周年となる2014年の活動方針10項目の確認

- (1) <地域・学習> : 【「見沼文化」の人類史標本を用いた分かり易い縄文学講座】
- (2) <地域・実習> : 【「見沼文化」の遺跡巡検など「みぬまっぷ」を用いた野外調査】
- (3) <地域・連携> : 【見沼未来遺産推進委員会への協力など】
- (4) <学際・連携> : 【NPO 野外調査研究所との共催事業など】
- (5) <学際・研究> : 【新潟大学災害・復興科学研究所との共同研究など】
- (6) <倫理・学習> : 【考古学のふりかえり: モースに続いては天才学者・坪井正五郎のコロボックル思考法】
- (7) <研修・啓発> : 【課題フリーの考古学演習、企画展ギャラリートークなど】
- (8) <交流・復興> : 【山田史談会と「山田湾まるごとスクール」の交流など】
- (9) <交流・芸術> : 【飯塚邦明ジャズピアノ・コンサート、井山紘文個展、井出政男「風画」土器制作など】
- (10) <交流・啓発> : 【日本考古学協会での図書交換会、ワイン・アーケオロジ-など】

2. 【研修・啓発／地域・学習】: 「製塩土器」をテーマに馬場小室山遺跡を考える！

2-1. 富士見市正網遺跡出土の「製塩土器」の熟覧と再吟味

- ・正網遺跡は奥東京湾でも武蔵野台地に位置し、荒川右岸における「製塩土器」の標準的資料である。1989年に「製塩土器」など報告の一部を担当したが、今にして思うと再吟味が必須であり、「分類の標準」に耐えうる記述と型式学が希求される。特に「安行2式」の「製塩土器」が存在するとの記述は過誤であり、ここに「安行3a式」として修正・訂正する。
- ・特に正網遺跡からは「安行2式」中葉の堅穴住居址が検出されており、ここからは「製塩土器」が出土しないが、「安行3a式」前葉の土器片を出土する土壌(16JD)からは「製塩土器」の破片が検出されることから、正網遺跡における「製塩土器」の出現は後期ではなく、晩期となる。
- ・また、正網遺跡では「安行3d式」も纏まり、「安行3d式」の「製塩土器」の有無も含めて再検討の機会としたい。茨城県土浦市神立平遺跡では「前浦式」に少数ながら「製塩土器」形態が見られる。

2-2. 馬場小室山遺跡や古鬼怒湾貝塚などとの比較研究

- ・正網遺跡を再吟味する意義は、正網遺跡出土の「製塩土器」を「分類の標準」として大宮台地周辺出土「製塩土器」の年代的系統的位相を導出することであり、現象面の特徴を明らかにすることから最終的には社会的な背景に迫りたい。
- ・特に古鬼怒湾と奥東京湾における「製塩土器」の製作を通じた年代的集団関係の分析を推進する。

3. 【交流・復興】「山田湾まるごとスクール」in さいたま市 : 「見沼文化」2014収穫祭【第2部】

- ・諸般の事情で企画のタイミングに支障が出ましたので、今夏の企画((8月29日(金)~31日(日)):「夢」と「志」と「愛」を育む山田湾)は中止し、後日機会を改めて今回の企画を実施予定。不測の事態対応として、五十嵐聡江さんをリーダーとした事務局体制で、山田湾文化の復興に向け、考古学から観た防災・減災基礎研究を行うべく、6月下旬に山田湾の船越半島低地帯の現地調査を実施した。11/24(月・祝日)にプラザイースト／多目的ルームにてこの研究成果も含め、「山田湾まるごとスクール」の活動を公開予定。
- ・前回紹介した3・11を始めとした過去の津波層である「黒砂層」の正体についてヘドロ(海底有機物等)説と砂鉄説を議論したが、自然地理学者の小岩清水氏は「黒砂層」サンプルを分析し、有機物説を紹介。

4. 【地域・学習／学際・連携】「縄文人は何を考え、どう生きたか?」: 学びの場として継続的な活動

- ・坪井正五郎の「コロボックル思考法」【モースによる静態標本ではなく、生きているコロボックル(アイヌではない、列島全体に痕跡を残した遠い先祖)の動態展示を目指す接近法】に学び、第一弾としてプラザイースト／多目的ルームにて11/3(月・祝)に「見沼文化」2014収穫祭【第1部】としてシンポジウム「縄文人は何を考え、どう生きたか?」の第2回企画(テーマ:「土偶、その表現と祈り」)を推進中。

5. 【連絡】 その他活動連絡・予定

- ・次回の日程(8/9or10: 井出政男個展)や「製塩土器」研究情報交換など